



Library Liébana

2022年6月度展示内容のお知らせ

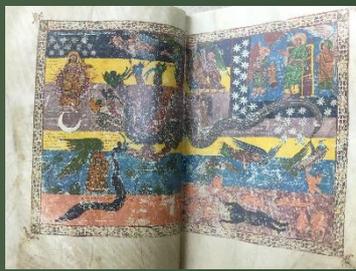
【今月のベアトウス写本】

黙示録に描かれた「太陽をまとう女と竜」の比較

【中世の詩篇写本】



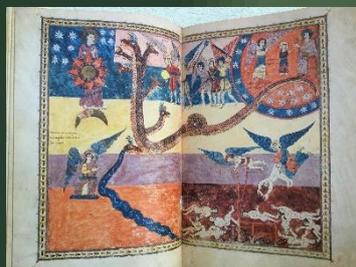
(ファクンドゥス写本)



(モーガン写本)



Luttrell詩篇



(ジロナ写本)



(シロス写本)



Macclesfield詩篇

【今月の黙示録写本】



・Valenciennes黙示録写本



Trinity黙示録写本 (Ms.R.12.6)

ファクシミリ本でみるスペイン黙示録の世界 中世彩色写本を紹介

ファクシミリ本とは：
オリジナル写本の大きさや色を再現。
特に羊皮紙の厚みやしわも忠実に
再現した複製本も多数展示しています。

愛知県豊田市西町5丁目5
VITS豊田タウン B1F
毎週日曜日 11:00~17:30
H.P.

6月の開館日(予定)
日・水・木・金曜日
(HPで確認下さい)



							6月
日	月	火	水	木	金	土	
29	30	31	1	2	3	4	
5	6	7	8	9	10	11	
12	13	14	15	16	17	18	
19	20	21	22	23	24	25	
26	27	28	29	30	1	2	

29日は休み

ベアトウスの黙示録註解書写本について

中世初期のイベリア半島北部アストゥリアス地方のリエバナにある修道院の修道士、ベアトウス(ベアト Beato ? -798)が776年に「ヨハネの黙示録註解書」を編纂しました。原本は既に存在していませんが、非常に人気を博し、10世紀から12世紀にかけて多くの写本がイベリア半島はもとよりフランスやイタリアなどで制作されました。ほとんどの写本には、彩色された挿絵が多数描かれており、その鮮やかな色使いと想像力豊かなインパクトの強い挿絵が後世にながく影響を与えてきました。

これまでに発見されたベアトウス写本のうち、挿絵入りのものは29 写本あり、そのうち完本の写本は22 写本、断簡の写本が7写本あります。

本ライブラリーには完本22写本のうち19写本のファクシミリ版があります。ファクシミリ版の中には羊皮紙の厚みやシワ・汚れ・破れ・落書き、製本様式や装丁などをそのまま再現した精巧なものもあります。

1000年近く前に作成された写本の当時の雰囲気味わってください。

今月のベアトウス写本

ヨハネの黙示録12章に記されている「太陽をまとう女と竜」の挿絵を見比べます。ベアトウス写本では、一連の物語を1枚で表現しています。

・太陽を身にまとい、月を足の下に、12の星を冠にした女が出現する。(挿絵左上)

・中央の竜は女が子を産んだら食べようとしていた。女は男の子を産み、その子は髪を玉座に引き上げられる。(挿絵右上)

女は荒野に逃げ込み、天では大天使ミカエルたちが竜に戦いを挑み、龍を打ち負かす。(中央上)

竜と全人類を惑わすものは地上に投げ落とされる(右下)

竜は女を追うが女には鷲の翼が与えられて荒野に逃れると、龍は口から川のような水を吐き出して女を押し流そうとするが、大地が女を助けた。(左下)

【モーガン写本】

10世紀前半に制作された最初期のベアトウス写本

【シローナ写本】

976年に完成。ほぼ完全な姿で残っている。

【ファクンドウス写本】

1047年頃完成。王家が発注したこともあり、金・銀・紫がふんだんに使用され、豪華な挿絵が98点描かれています。

【シロス写本】

1109年完成。これまでより一段と精緻な図形化したモサラベ様式の挿絵が描かれています。

詩篇写本の世界

今回はイギリスで製作された詩篇写本2点を紹介します。

当時の詩篇写本(Psalter)は、キリスト教で『旧約聖書』の「詩篇」、教会暦、聖人への祈りなどを内容とする分厚い書物で、中世の終わりごろに『時禱書』(時課経)が正式に現れるまで、おもに教会や修道院や富裕者や初心者がその日およびその時間の礼拝で具体的に何を歌い、祈るかに使われたもので、綺麗に挿絵が施されているのが常でした。(Wikipediaより)

①ラットレル詩篇

1325年～1340年にイギリス北部のラットレル卿が制作した詩篇写本。350×245の大きさで309葉の羊皮紙に描かれた大部の写本。本文周縁部に中世の生活(農業、狩猟、娯楽、音楽制作)が描かれ、14世紀の日常生活が窺われるとともに、人間の頭、動物/魚/鳥の体、植物の尾を組み合わせた想像上のハイブリッド怪物が多数描かれています。

②マックレズフィールド詩篇

1330年～1340年頃にイギリス東部で製作された写本。170×108という小型の写本であるが、252葉の羊皮紙に美しく彩色されている。ラットレル詩編同様に周縁部に描かれた挿絵は雑多なイメージで溢れています。

擬人化された動物たちが当時の人々が楽しんだ狩りや馬上槍試合に興じたり、ネズミが猫をやっつけ、兎が獵犬を獲物にひっさげてさかさまの世界が展開され、お猿のお医者さんが薬を処方し、狐の司祭がアヒルに説教するなど痛烈な風刺が披露されたりしています。

(「世界で最も美しい装飾写本」田中久美子より)

今月の黙示録写本

【ヴァランシエンヌ黙示録写本】

9世紀初頭(第1四半期)にフランスあるいはドイツで制作されたカロリングスタイルの黙示録写本。トーリア写本と共に、黙示録の完全なテキストと挿絵を伴う残存する最初期の彩色写本。

【トリニティ黙示録写本】

13世紀半ばに英仏で流行した黙示録の中でも特異な位置にある黙示録。当時の写本としては大判(435×320)の写本で、豪華絢爛に彩色されていることから、高貴な身分の人に献呈されたと考えられる。